

第11回 グループホーム北陽運営推進会議

日 時： 令和7年 12月 11日(木) 14:00～

場 所： グループホーム北陽 2F ホール

参加者：

出雲市役所 高齢者福祉課	1 名
出雲市あんしん支援センター	1名
川跡コミュニティセンター	1名
鳶巣コミュニティセンター	0名
協力医療機関 園山医院	1 名
ご家族様	0名
グループホーム北陽	5名

〈協議事項〉

(1) 施設運営の状況報告

- ・入居者18名 2か月前と変わらず。2名(1名の方は転倒骨折、手術で入院、もう1名の方は薬物調整で精神科に入院) 現在2名の方は退院され戻られています。介護度ですが3→4になられた方と逆に2→1になられたかたもありました。
- ・行事について

実施	11月 12月	運動会実施出来ず クリスマス、忘年会 ※北稜インターアクトボランティア ※島根県立大学出雲キャンパス実習 接遇週間(月 1 回1週間実施)、キャプション評価、認知症サポーター養成講座
----	------------	---

何とかするようにしていたけれど、夜勤専属の職員が2名辞めた関係で人員がいない状態になり、職員フル回転でやっています。休みのない状態で余裕がない状態であるのが現実です。職員の確保というところで、見学は数名ありましたが採用にはつながっていません。どなたかいらしたら紹介いただきたいです。

現在正社員9名、パート2名です

本当は運動会と遠足に行く予定でしたが結果は実施できませんでした。

12月中旬でもうすぐクリスマスなのでクリスマスの企画を考えています。今年最後なので去年もクリスマス忘年会をしたので今年も予定しています。

大学の実習で入れ替わりに来られています。認知症についての勉強をされていますが、座学で学ばれること以外に現場の実際を見てもらう。コミュニケーションと基本的な養成講座をしています。

インターアクトクラブ毎週水曜日と金曜日にボランティアに来られています。去年養成講座を受けられ将来看護、介護を目指してる生徒さんでとても学びがありかわりを上手に対応されている。何かさせてくださいと言われて雑巾がけや壁紙作り、塗り絵など人手がいない時なので助かっています。新たにインターアクトに生徒さんが入られて10名くらい増えたので養成講座をしてほしいと要請がありインターアクトクラブで養成講座をさせていただきます。

8月に不適切なケアがあり10月から実践。10月11月と接遇月間という形で接遇と虐待のチェックと取り組みとしてキャプション評価1か月行ったことを報告したいと思います。

1月は新年会を予定しています。去年はコロナで行事ができない3か月で面会もできませんでした。今年は面会

制限することなく週末出かけられる方もおられ行事ができたと思います。

・研修について

実施	11月	パーソン・センタード・ケアに基づいてかわり考える
	12月	日々の振り返り

不適切なケアがあったからではなく、毎月研修をしています。開所してから認知症について基本のところを何度も繰り返し研修をしてきましたが、頭でわかっているにもかかわらず実際に出来ていなかったのが今回のことが起こってしまった。今一度研修の強化としてこの2か月は何度も話し合い研修をしてもう一度考え、振り返ることをしてきました。1, 2月の予定としてこれを継続していかないといけないと思っているので、接遇週間の実施と振り返り、無理のない所で最低限の研修+αでやっていかないと今までと同じではいけないと思っています。

(2) 改善計画の取り組みについて

改善をしていくために面談、接遇週間、虐待チェック、身体拘束の研修などいろいろな勉強会をしました。ただ勉強をするだけでは何も変わらない。今回の北陽の取り組みとしては、キャプション評価という評価をしました。いくら学んでも慣れや個々の意識や感覚の違い、何が良くて何がいけないのか統一したケアができていないなど。それらをすり合わせていく作業をしました。

※不適切なケア事案による改善計画の取り組み参照

(3) 意見交換

❖出雲市高齢者福祉課

Q : 今回キャプション評価をお行われて職員さん同士の考え方の統一、共有出来てそこからどう改善できるか話し合いをされて良いと思います。人手が厳しいと思いますが×の改善がたくさんある中それも改善できればいいですが優先順位をつけて対応できるかというのかなと思います。優先順位をつけ重点項目からしていったキャプション評価は時間がかかるので定期的にするのは職員さんの負担になると思いますが、ピックアップした項目だけでも定期的にどうだったかというのを皆さんにアンケートを取ってやってみるのもいいかなと思います。

A : 優先順位ですが不適切なケアの関りの部分で考えているので、今回いろいろな場面でこういう声掛けをした、いいと思って声掛けをしたが BPSD に繋がってしまった。ということでさせてもらって、基本順位の1番は関りなのかなと。関りについても認知症の理解をしているのか、パーソン・センタード・ケアに基づいたところが今回の一番大事なところ。そのかたの認知症の症状、性格、背景をしっかりと理解しないと関れないということ。介護は移乗や食事、入浴などあり一つの何かを取り掛かる時だけのケアでは上手くいかない日頃の関りや関係性を作っていく。なぜそうなのかこの人がどう思ってどういうことを考えているのか、そういうことを1にしたいと思います。

❖出雲市あんしん支援センター

Q : しっかり振り返りをされている。今後の課題のところでキャプション評価をしないと忘れてしまうのですか

A : 個々の力量や経験、思いを持っているかで違ってくる部分もあって、自分は100%これをやっていきますと言い切りたいですが今も人がいなくてみんなフル回転しているなか職員のストレス、負担というところでフォローもしていかないといけない。それでもみんなが気を付けていたのはこれをしていたからというのはあります。もししていなかったら今起こっていたかもしれない。

Q : 今後も続けられますか、今回2回行われたことで意識が芽生えておられると思いますが。

A : 職員間で声をかけることがなかなか出来ない、そういうつもりで言ったのではないけれどぶつかり合いになることや揉めることもありました。人の気持ちを考えて伝える、歩み寄りという姿勢について職員にも伝え今はお互いが気を付けて声をかけていると思います。不適切なケアがあった時どうするのかということを今回考えその人に会った伝え方、その人にあったかわり方認知症ケアもその人に会った伝え方もあるのでそこを上手に伝える。相手に言える関係性の強化、言えない時はどうするのか、施設長に報告をするなど。

本当は続けられるといいと思うのですが、まとめていくと負担もあります。

Q : やり方を変えてやってみるのは

A : いいやり方があったら教えてください。今回のキャプション評価は実際仙台に行った時の研究題材から引用しているのでやっていることが大変になっているのですが、ねらいからすべて挙げてあげてやってきているので余計大変だったかもしれません。簡易式に考えられればいいのですが、今回はそこまで深掘をしないと不適切なケアが起きたという実際があるのでここまでのことをしました。

❖協力医療機関

Q : 不適切なケアが今回あってとても残念なことでしたが、それをきっかけに施設長が2回にわたりキャプション評価をまとめられ大変ご苦労なことだったと思います。認知症ケアで施設の皆さんが同じ方向、同じ姿勢でキャプション評価をやって？のところはわからない、どうしてそうなのか根拠が必要。？をあげて会議では質問が出ると思うのですが、誰がどのように話し合っ方向を決めていくのか、それとも施設長が示唆していった方向性を決めるのですか

A : 日頃から、不明点があったらこれはどうなの？と直接聞いてこられることが多いです。言ってくる人がほとんどですが言えない人もいますのかと。ほとんど現場に入っている中で、その中で聞かれることやそれはおかしいよということはその場で指導をしています。頭ではわかっているというけれど、実際はうまくいかない、できていないことが多い。わかっていないからできていない。これは、繰り返しやっていくしかない。×は教えてもなかなか改善できるわけではない。分からないこと不思議に思ったことは聞いてもらうようにしています。あとは勉強会をします。勉強会も基礎から同じことを何度もやっていますが難しく考えてしまって中核症状の記憶障害、見当識障害について伝えるけれど中核症状が理解できていない。全員がそういうのではなく、基礎的なことが分かっていない理解できていないので記憶障害があり同じことを繰り返し言われるこの方は認知症なのでさっき言った事は欠落しているから初めてというその理解ができていないので不適切なケアが起こってしまうというところに繋がっているのかなと思います。

Q : キャプション評価箱というのを聞いてなかなかこえをあげられない、きいてもなかなか発言できる人も限られていなのでキャプション評価箱に聞けないこと入れて話し合ってもいいのかなと

A : まずは意識が一番大事で、意識をするというのはいろいろな意識があるのですが言われなくてもいい、聞かなくてもいいと思っているのも意識の一つ、聞いてみたほうがいいよと職員が言ったとしても聞かなくていいよという方もおられますその意識北陽の利用者さんのため、会社をよくするために言わなくていいというのは絶対はないのでその意識改革も必です。ただこれは個人的にこうなさいということは出来ないのと呼びかけはしています。何でも言える関係を作らないといけないと思っています。

振り返りというのは大切、自分で振り返らないと気づけない、人がいくら言っても自分がそれを何とも思っていないから変わらない。だから今日このキャプション評価で自分のケアを振り返る、自分の関りを気づくというのをやりました。個々の意識を持ってくださいとかいたけれど人によって違う。

Q : 今回の目標設定の評価はどう判断されたんですか

A : 直接の評価というのは短期目標なので1回目をやって勉強をして2回目を取り掛かるまでの個々の意識としてやるというものなので評価という評価はしていませんが、2回目のキャプション評価で出来ていなければ上がってきていると思います。この短期目標以外のことも上がっていたのでこれだけの評価というのではないかと思います。

❖川跡コミュニティセンター

Q : みなさんが一生懸命やられている中でちょっとしたケアレスミスだったりすることも多々あるので、それを踏まえてどうするかということで、今回これをされるということはいいいことだと思います。みなさんが一歩も二歩も前へ出られたということで評価されてもいいのでは。

11名の方が100枚出されて一人10枚とか出しておられるわけですが、個々の人がどうなっているかというのが集計しているのかわからない

A : テーマパークなどで使う場合無記名になるのですが、今回はこんなこともあったのでどの職員も自分の押印をしています。自分が書いたことが分かるのでそのことは話せている状態ができています。職員間ではだれが書いたかわからなくしてあります。

Q : わかっていればいいです。○×をつけるのは簡単で文章で書くというのは大変なこと、これを全体でやられて終わっているのか、一人10枚書かれて出されたものはトータルして施設長が一人一人話をされているのか。また書くことでその人の心の中のことは出ていないので、口下手な人は言えないかもしれない。もっと悩んでどうしていいかわからないというところを探り出してあげて個々のレベルアップ、その人にあった話し方を個々の人と面談していただいたら

自己意識のことで書かれたことはクリアされた要件だと思いましたので大変立派な心構えと思っています。

A : ○×は自己評価になります。それをされたうえでの面談というのは以前からものすごくやっています。その人の力量と性格など言えないところもあるのでそれを踏まえて個々の面談は都度するようにしています。今後の展開も今までと一緒にはいかないと思っています。

みんなで自分のこととしてこの職場のことを考えられた何か月、それはこれからもしていかないといいない。今後の在り方に関しては職員会議がまだできていないので、職員会議で話し合いをする予定にしています。

次回運営推進会議予定

令和8年2月12日(木)14:00～